

第5節

仕事観

子どもの年齢が上がるにつれ、働いている母親（常勤者、パートタイム、フリー（在宅ワークを含む））が増えている。

●働いている母親は2割

子育てをしている母親は仕事をどのように考えているのだろうか。母親の就業状況に関する質問項目は、05年・00年・95年で異なるため、正確には比較できない。したがって、ここでは、05年の全体数値（0歳6か月～6歳11か月の乳幼児をもつ母親の回答）で分析したい（図2-5-1）。これによると働いている母親（「常勤者」＋「パートタイム」＋「フリー」、以下同様）は24.3%である。この年齢層の乳幼児をもつ母親は専業主婦が圧倒的に多い。

●子どもの年齢が上がるにつれ、働く母親が増えてくる

子どもの年齢別でみた母親の就業状況の結果は図2-5-2である。子どもが0歳児の時に、働いている母親の比率は12.1%、4歳児では27.7%に上昇し、さらに6歳児になると、37.2%まで高まる。子どもが小さい時には、子どもの世話が母親の生活の中心だったが、4歳児になると、子どもが幼稚園に入るとをきっかけに、仕事を考え始める母親がいる。また、あまり手がかからなくなる6歳児にな

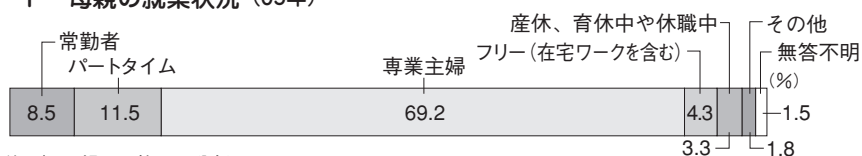
ると、母親は育児を優先させてきた生活から、なんらかのかたちで働きたい母親が増えてくる。常勤者の割合は、1歳児以降1割前後で変わらないが、パートタイムの割合が増えている。育児がまだまだ大変なので、フルタイムで働くことより育児と仕事が両立しやすいパートタイムを選択している母親が多いようである。

●「仕事は子どもが大きくなったら持つのがいい」と考える母親が6割

母親に女性と仕事についての考えをたずねてみた。95年・00年・05年の結果を比較したのが図2-5-3である（無答不明を除外して、比率を出している）。

「仕事は持つが、結婚して子どもが生まれたら一時やめて、子どもが大きくなったら、また仕事を持つのがいい」と考えている母親が圧倒的に多数であることはこの10年間で変わっていない。「結婚して子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのがいい」と回答した母親の比率は10年前と比べて、2.2ポイント増え、14.7%となっている。子育ても仕事も両立したいと考えている母親は、この10年間で、わずかではあるが増えている。

■図2-5-1 母親の就業状況（05年）

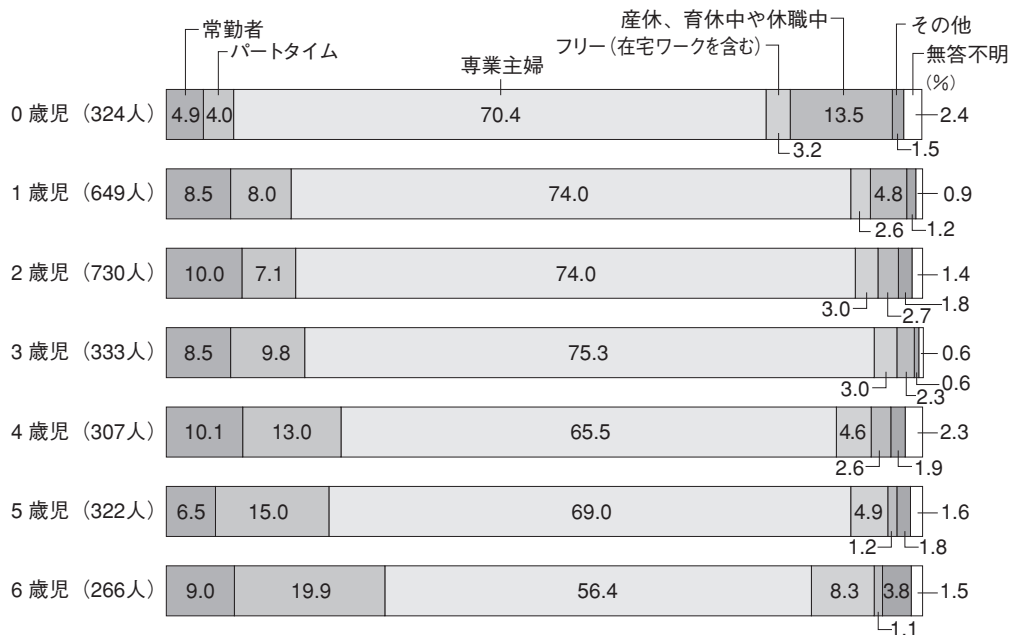


注1) 母親の回答のみ分析。

注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

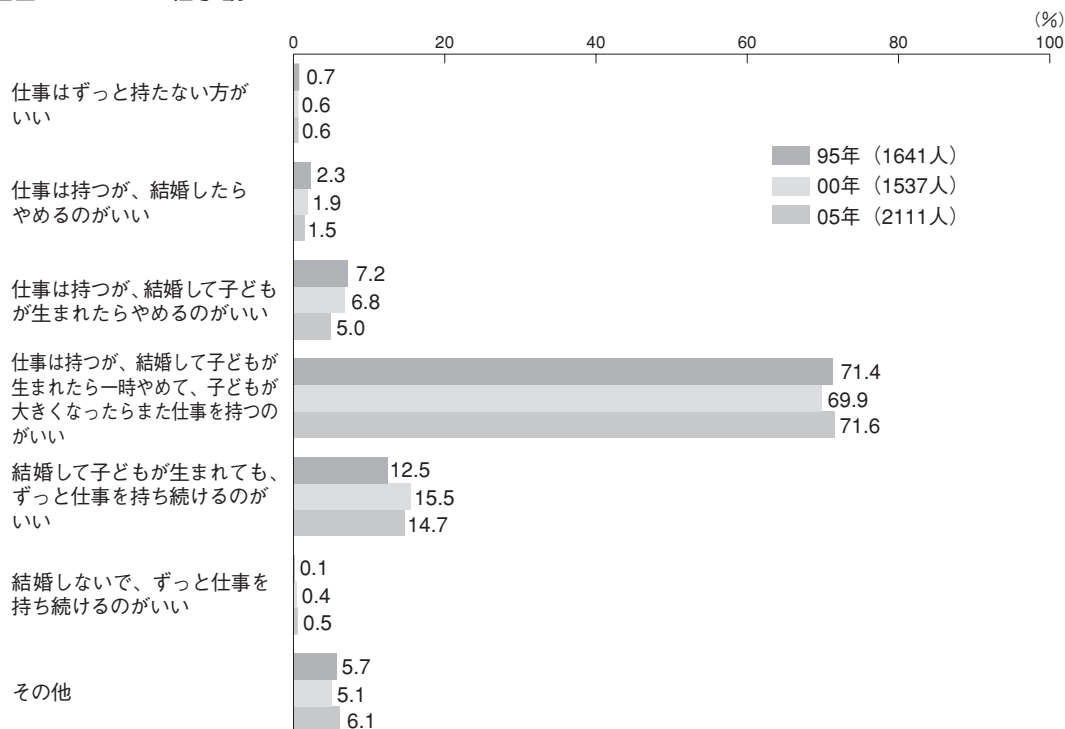
(サンプル数 2931人)

■図2-5-2 母親の就業状況（子どもの年齢別 05年）



注1) 母親の回答のみ分析。
 注2) 0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ母親の回答を含む。

■図2-5-3 仕事観（10年比較）



注1) 母親の回答のみ分析。
 注2) 無答不明を除いて算出した。